河北新報〔平成27年10月20日(火)〕

藤岡3階級制覇

WBO女子バンタム級王座決定戦

藤岡奈穂子（竹原慎二&畑山隆則）53・0キロ 判定 兪禧晶（韓国）53・1キロ

日本女子初

世界ボクシング機構（WBO）女子バンタム級王座決定戦10回戦は19日、東京・後楽園ホールで行われ、世界ボクシング協会（WBA）スーパーフライ級王者の藤岡奈穂子（竹原慎二&畑山隆則、大崎市出身）が兪禧晶（韓国）に3―0で判定勝ちし、日本ボクシングコミッション（JBC）の女子公認後、日本初の3階級制覇を達成した。

ダウンは奪えなかったが、スピードと手数で圧倒した。ジャッジは2人が100―90、残る1人が99―91の採点だった。

40歳の藤岡は2011年に世界ボクシング評議会（WBC）ミニフライ級王座、13年にはWBAスーパーフライ級王座に就いた。戦績は15戦14勝（6KO）1敗。35歳の兪禧晶は18戦15勝（6KO）3敗。

藤岡 奈穂子（ふじおか・なおこ）アマチュアで実績を残し、09年9月プロデビュー。11年5月にWBCミニフライ級王座を奪取し、2度防衛。13年11月にWBAスーパーフライ級王座を獲得。右ボクサーファイター。40歳。大崎市出身。

【採点表】

	藤岡（比）	兪禧晶（韓）
	タプダサン	タプダサン
	タイ	フィリピン
	竹原	竹原
	畑山（日）	畑山（日）
1	10	9
2	10	9
3	10	9
4	10	9
5	10	9
6	10	9
7	10	9
8	10	9
9	10	9
10	9	10
計	99	100

（注）比はタイ、ピンはフィリピン

40歳 終始相手を圧倒

藤岡が文句なしの判定勝利で日本女子初となる3階級制覇を果たした。それでも、KOで仕留められなかったのが相当不満だったようで、「いろんな攻撃パターンは出せたが、ちょっと物足りない」と何度も悔しそうな表情を見せた。

立ち上がりから主導権を握った。1、2回はボディーを打ち込み、3回は重い左フックから連打。最大の好機だった6、8回はアッパーや左右の連打で兪禧晶を追い詰めた。しかし、「粘り強かった。ジャストミートした感覚があっても倒れず、心が折れそうになった」と振り返った。

KOにこだわったのは、観客を沸かせたい一心から。試合中、両手を上げたり、右腕をぐるぐる回したりして、会場を盛り上げる場面も。1年3カ月ぶりの国内戦に「ヤマ場をつくりたかった」と燃えた。

先月、約30人に呼び掛け、初めてボクサーの女子会を開いた。「みんなの熱い思いを知った。もっと頑張ろうという気持ちになった」。女子ボクシング界をけん引する決意を新たにした。

次はライトフライ級かフライ級を狙う。「どんどん挑戦するしか道はない」。40歳の女王はリングを下りるつもりはない。（庄子晃市）

7回、兪禧晶（左）を攻める藤岡

○…「スピード、経験に差」

打たれても果敢に前へ出る気迫を見せた兪禧晶は「スタミナは負けていなかったが、スピードについていけなかった。経験の差も出た」と潔く完敗を受け入れた。

夫はWBCミニマム級9位の裵永吉（韓国）。この日はセコンドについたが「自分が代わりにリングに上がりたかった」と、思わず本音が漏れた。